

＼リーファー アズドライ／

REEFER AS DRYについてご紹介します！

今回はリーファーアズドライについてご紹介いたします。

リーファーアズドライは、“REEFER AS DRY”の頭文字を取って「RAD」と呼ばれたり、別名「NOR (NON OPERATED REEFER)」と言われております。低温・定温輸送に使われるリーファーコンテナをドライコンテナとして海上輸送する方法です。

主に温度管理が必要な食材などを運ぶために使われるリーファーコンテナですが、日本の場合、食材は輸出よりも輸入される方が圧倒的に多いため、リーファーコンテナが国内の各港に滞留します。

このアンバランスを解消するために、リーファーコンテナを必要とする外地に戻さないといけませんが、リーファーコンテナに付属する加温・冷却ユニットを作動させずに、通常のドライコンテナとして用いられることがあります。
(船会社の需給バランスによって生まれるものなので、船会社・サービス航路・時期によって状況は異なります。)

【メリット】

- ・ドライコンテナよりも、安価な海上運賃になる可能性があります。

【デメリット】

- ・冷却装置と断熱材の厚みがある分、40'HQコンテナ(約76m³)より内寸が狭くなりますが、40'HQ REEFERは、40'DRYコンテナ(約67m³)とほぼ同容量となります。
- ・バンニングやラッシング方法がドライコンテナとは異なり、カートン・パレット積みなら問題はありませんが、床に釘で固定ができないため、荷姿によっては対応できない貨物もあります。
- ・一部、積載できない品物もありますので、詳細はご確認ください。



リーファーコンテナとは、冷却装置を取り付けたコンテナであり、通常は-30℃から+30℃までの温度設定が可能。ドライコンテナの床は木製に対し、リーファーコンテナの床は空冷用の空気が循環するための溝があるのが特徴。



ジャパントラストでは、北米向けのリーファー アズドライのサービスに力を入れておりますので、ご興味がある方は、お気軽にお問い合わせください。